

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000072		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム 千花		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2592-1		
自己評価作成日	平成28年12月	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H25年4月に開設し、早いもので4年目となります。周辺には公共機関や商業施設が徒歩で行ける範囲にあり大変便利な場所にあり、又、近年は高速道路の開通により3号線の交通量も減少し、大変静かな環境です。室内は完全バリアフリーで日当たりも良く、外には畑もあり利用者様と一緒に野菜を育て収穫し美味しく頂いています。時には裏庭でランチや、日光浴をします。8月には町内花火大会見学、秋には夕焼けが大変綺麗に見えます。町内の行事に出掛けたり、町外へのドライブも月に1度は行くようにしています。食事は季節の新鮮な食材で職員が毎日メニューを考え、手作りで提供しています。職員は30代～60代で個々の意見を出し合い日々支援させて頂いています。千花の理念の基、思いに気付き寄り添い、笑顔の花を咲かせ、穏やかな日々を送って頂ける様取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所4年目を迎えるホームは、既存の建物を活用した大幅な改装により、コンパクトながらも物品の配置や空間、動線が入居者に使い勝手の良い造りとなっている。リビングは終日入居者や職員、面会に訪れた家族の会話で賑わい、日々の暮らしぶりを窺い知る事ができる。法人は併設施設を多数運営する地域福祉の先駆的存在であり、関係者が運営推進会議や家族会、ケアプランの検討会などに関わるばかりでなく普段から足を運びホーム運営に関わる事で、基盤体制が確立している。本年度は特に熊本地震を受け、緊急時における夜間帯の職員2名体制や、定期的災害訓練に加え、ホーム独自の自主訓練の実施など職員意見が反映され、「入居者を守る」という原点に立ち返って支援しており、安定した運営が家族からの高い信頼となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新清会理念をタイムカードの横に貼り理念を出勤退社時声に出して読んでいる。又千花での理念も作り全職員で共有し実践に繋げるよう努めている。	開所時より職員がケアの柱として大切に育てている理念は見直しの結果、4年目を迎えた現在全員の総意として現行のままで支援にあたる事としている。また、理念を具現化した月目標は、月例会で全員が評価し、入居者への支援の在り方や、自らを振り返る機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者職員は近隣の方への挨拶には常時心掛けています。ほぼ毎日近所を散歩したり、近くのお店へ買い物に出掛けている。避難訓練など手伝いを呼びかけています。6月の1日一汗運動にも参加するようにしています。	国道沿いに建つホームは、沿道にある商店を生活の中に十分活用しながら人々との交流を図り、入居者の気分転換やちょっとした外出の機会となっている。町内の美化作業や文化祭への展示物の協力をはじめ、地域全体で防災組織を編成し、有事に備えた安全対策に力を入れている。地元高校生の体験学習の受け入れや、同業者間での交換研修など人材育成にも積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事に参加し地域の方々との交流を深めている。町主催の行事は毎年参加していたが今年度は中止となった。文化祭には作品を出展搬入、見学へ出かけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の近況報告や他委員からの質問意見要望を聞き、サービス向上に繋げている。地域の行事なども事前に誘って頂いている。今年度より区長の提案で、ヒヤリハット、事故報告の説明も行う事故などの防止に繋げている	行政や地域・家族の代表者が参加して定期開催が実現している。ホーム側から毎回管理者と職員が同席することで進行や記録がスムーズに出来ており、参加者には何か一言発言される機会を作っている。地域代表者から出た「リスク報告を文章にて知らせてほしい」との要望にすぐに対応し、その後の会議の中で予防や対応策について意見が出されるなど、運営に反映されている。	会議は入居者が生活するリビング内で行われ、参加者が現状を見ながら内容とすり合わせる事で理解や発言の引き出しにも一役を買っている。できれば体験実習等で訪れる学校関係者にも一声参加を呼びかけることで、別の角度からの話が聞かれることと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修会等には必ず出席するようにしサービス向上に活かしている。他ホームや包括、ケアマネージャーなどと意見交換などをしケアの向上に活かしている	行政や警察・消防・病院といった町の主要機関が集中する地域であり、運営推進会議への協力を留まらず、法人を通じ防犯・防災・緊急時対応の連携が取れている。役所からの研修案内や包括との情報交換など協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を法人の中で実施し職員全員が正しく理解し実践に取り組んでいる。玄関居室等の施錠についても身体拘束であると認識し、利用者様の状態を把握し見守りを工夫しケアに取り組んでいる。スピーチロックに関してはスタッフ間で声かけし注意しながら改善策に取り組んでいる。	拘束はしないことを基本とし、法人の勉強会やスピーチロックについて気づいた時は職員間で注意し合っている。ホームは幹線道路に面しており車の往来が激しいが、日中は門扉も開けている。また、玄関のセンサーも職員の手薄の時のみ使用するなど、意識を持って取り組んでいる。外出傾向にある方や落ち着かれない時は、職員がソファで話をしたり、気分転換に散歩に誘うなど、安心される対応をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止も職員全員注意し声かけしながら防止に努めている。今後も職員全員が意識を持って取り組んでいきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を設けたいと思う。家族よりこのホームに利用されている方がいないか質問されたことはある。現在対象者はいないが今後学ぶ必要はあると思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書の説明利用料金、重度化や看取りについて、医療連携体制、起こりうるリスクなど詳しく説明している。報酬加算料金改定時には文書を発行し個々に詳しく説明している。経済的不安に対しては個別にて対応相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との毎日の会話のなかで意見要望不満等聴くようにしている。内容を必ず職員間で話し合い運営に反映させている。家族の面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。家族要望ノートにて職員間で共有し運営に反映させている。	入居者とは毎日ゆったりと過ごす場面を持てるようにしており、特に入浴時や爪を切りながら意見・要望を聞き取っている。家族からは運営推進会議や面会時などに確認しており、利用料はホームへ持参とすることで、面会の機会や職員とのコミュニケーションを図るようにしている。入居時にはホーム内外の相談窓口についても説明を行っている。これまで苦情などは寄せられていないが、要望については職員間で対応を検討し、報告することで信頼関係を築いている。	ホーム新聞は家族も楽しみにされており、行事予定欄なども協力を繋がっていくものと思われる。ホームの連絡先については、市外局番も記載されておくと、特に遠方の家族にとってはスムーズな連絡ができると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で業務検討会を行い意見を出し合い聴くようにしている。又休憩時などに気付いた点は都度話し合えるようにしている。運営会議の席で理事長事務長、訪看主任を交え意見や提案を出し合い運営に反映させている。	業務検討会をはじめ、管理者はともにケアにあたりながら職員の意見や要望を確認し、法人代表者や事務長へ報告を行っている。職員間のコミュニケーションも良く、働きやすい職場環境は離職もなく、生き生き業務にあたる職員の姿が入居者への最良のサービス提供に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	常勤7名にて個々の事情を踏まえ、継続して働くことが出来ている。福利厚生 の 確 立 職 員 の 資 格 取 得 に 向 け た 支 援 を 行 い 取 得 後 は 職 場 内 で 活 か せ る 環 境 作 り に 努 め て い る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会や町主催の研修会、実践者研修等全職員が参加できるよう体制を作っている。研修報告は毎月の月例会時発表している。資格取得に向けてお互い声掛けし頑張っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会熊本県支部総会出席、情報交換に努めている。水俣芦北ブロック会に参加交流に努めている。グループホーム間での交換実習や同法人同志の交流など通じ質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーや情報提供書にて事前に本人の思いや不安を全職員が共有し傾聴するようにしている。要望等にも耳を傾けコミュニケーションをとりながら関係作りに努めている。各担当でアセスメントをとり情報を共有してサービス向上に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と世間話など交え、ゆっくりと話を聞くようにしている。特に不安なこと、要望等は時間をかけ関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員間で話し合い状況確認し、必要としている支援の提案をし他のサービス利用にも繋げていくよう努めている。相談者との十分な話し合いにも努め、代表者にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の能力に応じ家事や畑仕事等を一緒に行っている。又出来ることはして頂き出来ない事を支援させてもらっている。常に笑顔で接するよう心掛け穏やかに生活して頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の状態を報告相談している。疎遠になりつつある時は電話などで連絡、相談報告をしている。利用者様や家族との関わりを多く持ち良い関係を築けるよう努めている。本人のお誕生会には家族にも参加の声かけもしている。又年に1回家族会を開催し多くの参加を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方など気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りに努めている。馴染みの場所などに度々ドライブに出掛けている。古里訪問は利用者様宅を訪問し、近所の方との交流も続けられる様支援し、また、今後も続けていきたい。	家族や友人・知人が気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りに心がけ、今後の来訪も引き続き依頼し大切な関係が途切れないようにしている。ふるさと訪問や地元神社への初詣、ドライブなども馴染みの場所について情報を収集している。また、季節の団子や饅頭など入居者の昔取った杵柄を發揮できるような食の場面も持っていることは、聞き取りや写真などからも確認された。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士出来ないことをお互い手伝われている場面を職員が見守っている。時々気分の変化にむらがある為、全職員が個々の状態を把握しながら共に楽しく生活できる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーや情報提供書等にて詳しく伝えるようにしている。その後の経過を見守り、必要に応じ相談や支援に努めることを本人家族に伝えるようにしている。時々面会に出向く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が本人に聞いたり日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。その思いを職員間で共有し話し合いケアに活かしている。時には居室でゆっくり会話することもある。	職員は日頃の関りの中で1対1の時間を大切に、ゆっくりと話を聞きながら意向を確認している。入居者の思いは家族へ発信され面会や外出の機会に繋がっている。程よい広さの室内が入居者と職員の接点をよりはぐくみ、互いの会話の中にも支援のヒントがあるようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いたり前施設などから介護サマリーや情報提供書等などにて経過の把握に努めている。暮らしの情報シートなども利用しているプライバシー保護にも充分努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックにて心身の状態把握に努めている。本人の有する力を職員が気づきチームで把握共有し家事など個々のできる力に応じ手伝って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞きカンファレンスを開催し介護計画をたてている。各担当にアセスメントを記入してもらい意見を反映しプラン作成をしている。現状を把握しながら、必ず見直すようにしている。	入居者を職員の担当制としており、職員は入居前の情報や、ホームでの生活ぶりから新たにアセスメントを製作しプランに反映させている。担当者会議には家族をはじめ担当医師や訪問看護・法人事務長など、個人を取り巻く関係者が立ち会い検討されており、本人の意向を重視したプランとなっている。計画作成担当者は家族へのプラン説明にあたり、内容をより分かりやすく伝えるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアの実践気づきなど個別に介護記録に記入し、職員間で情報共有しながら気づきや工夫を話し合いケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ柔軟に対応している。母体が医院である為医療との連携にて受診入院、病気の早期発見に努め、支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らして行ける様運営推進会議には区長、民政委員消防署員、役場介護保険課参加してもらい意見交換している。年2回の避難訓練には消防署Qネット、近隣の方などに参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院がかかりつけ医である。利用者様の状態は常に医師に報告又は訪看に相談している。又、状況に応じて専門医の受診も支援している。	かかりつけ医については本人・家族の了解のもと全員が母体医療機関をかかりつけ医とし、定期や必要に応じた受診を支援している。医師が直接ホームを訪れる機会も多く、適切な医療支援や訪問看護は家族の安心や信頼に繋がっている。他の医療機関については、家族と一緒に職員も同行し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。週1回の訪看来荘時情報連絡し、連携、相談している。異常に気付いたら母体の医院にすぐに連絡するなど健康管理や医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体がかかりつけ医であり、入院時には情報提供しケアについて相談している。病院関係者と利用者様の状態なども情報交換している。入退院時には家族への状態報告や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず家族に意見を尋ねている。状態に変化が生じた場合にはかかりつけ医と意向確認をし対応している。又、入院が必要な場合は職員間で話し合い家族や母体のかかりつけ医、訪看などと連携し支援している。	入居時にホームの方針を伝え家族の意見や意向を聞き取っており、状態変化が生じた際は、あらかじめ医師とともに意向を確認している。看取り支援についてはホームでも対応できるが、これまで事例はなく継続した医療が必要になった時点で、母体医院などへ転院されている。管理者は今後も本人の望まれる生活を支援するために、家族の協力も得ながらホームにできる事を模索していきたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加している。ミーティング時に対応について不明な点など話し合いをしている。緊急時対応マニュアルを作成し見える場所に貼り実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署近隣の方にも参加してもらい避難訓練している。今年は夜間対応も実施。地域の災害対策連絡会議も声かけお願いし、法人での災害対策委員会にも、協力を得ることができる。11月には台風大雨を想定し自主避難訓練を実施、法人の協力を得る。	消防署や近隣者の参加協力のもと年2回(気候の良い春・秋)の避難訓練と11月には法人の協力を得、台風大雨を想定した自主避難訓練を実施している。火災は火を出さないことが1番であり、火元やホーム周辺のチェックをはじめ、防火管理者資格を多くの職員が持つなど、法人としての防災意識の高さが窺える。また、昨年2月の大雪の際は、出勤も困難な状態であり、職員は協力しあい業務に支障をきたすことなく支援ができていた。今回の熊本地震ではホームに被害は無かったものの、余震への不安から2週間は夜勤者2名で対応が行われた。	ホームは消防署に近いという環境に有り、今後も近隣・地域の協力を得ながら自然災害を含め、入居者・職員の安全確保に努めていかれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様1人々の事を充分理解し言葉かけや対応をしている。居室に入る際は必ずノックをし訪室している。入所時ホーム発行の新聞に掲載してよいか否かお尋ねしている。又業務検討会にて全職員が必ず振り返り注意し合っている。	一人ひとりの入居者のこれまでを大切に、職員は呼称や声かけ・誘導、見守りなど尊厳や本人に合った対応に努めている。居室へ入る際はノックを徹底し、衣類整理なども了解の元おこなっている。また、面会記録も個別記入とし、ホーム新聞も承諾を得て掲載している。職員の守秘義務については、入・退職時や法人内研修でも周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通じ思いや希望が話しやすいような環境に努めている。食事中など顔の表情にて好き嫌いを把握している。言葉にて意思表示できられない利用者様の排泄など表情や体の動きをキャッチし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人々のペースに合わせ本人の意向を尋ねながら支援している。散歩も1人々の状態に合わせて職員が個々に対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に相談や協力を得ながら、馴染みの理美容院の利用やホーム内にて本人の意向に沿って散髪支援している。近くの店へ利用者様と一緒に掛掛けショッピングなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備を手伝ってもらったり一人々の能力に応じ配膳下膳をして頂いている。出来ない利用者様の配膳下膳は出来る方が手伝っている。食事形態も個々の状態に応じ提供している。	冷蔵庫や野菜など現在ある食材から、入居者と相談しながら前後で重ならない献立を決めている。職員は鮮度や旬の食材を見極めながら購入に出ており、時には入居者も同行している。また、野菜の下ごしらえなどできる事を支援している。バランスや彩の良い料理に加え美味しいお茶、誕生日には手作りケーキや本人の好みをひと品加えお祝いするなど、食事支援が好評である。	管理者はこれまで一人暮らしの方が多かったので、顔を見ながら皆で揃って食べるのがホームの楽しい食事支援への取り組みと語っている。今後も、入居者の笑顔と健康を支える食事支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人々の好みや習慣を全職員が把握している。月に1度体重測定をし増減の確認をしている。必要な食事水分が摂取できているか把握し支援している。場合により、医院の栄養士などに相談をしバランスのとれた食事の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が口腔ケアの重要性を理解している。利用者様一人々に応じた口腔ケアの支援をしている。夕食度義歯は消毒を毎日支援している。口腔ケアが適切に支援できているかカンファレンスにて全職員で話し合い清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用者様の状態に応じ可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立の支援を行っている。支援の結果入所後オムツからリハビリパンツ更に布パンツへ移行になられた利用者様もおられる。	半数の方が自立排泄であり、継続できるように努めており、他の方も声かけや誘導により失敗なく現状を維持できるようにしている。日中はトイレでの排泄であり布パンツやリハビリパンツに尿とりを併用するなど状況に応じて組み合わせを行っている。夜間のみ安眠や安全面から紙おむつを使用される方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し飲食物に繊維質の多い物を提供したり水分摂取などの工夫をしている。日光浴や毎日の運動散歩などを通じ自然排便を促す工夫をしている。又Drや家族に相談し場合によっては緩下剤などの服用の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状態や意向に沿って支援している。羞恥心や負担感等を全職員が理解し都度声かけしながら、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。	ホームの入浴は1対1でゆっくり話をしながらの対応により入居者の楽しみになるように努めており、希望や状況に応じ毎日や1日置きに入られている。冬場は月・木と曜日を決めておられる方もある。拒否があっても職員は日頃の関わりからタイミングや誘導方法を工夫し、週2回入浴されている。洗面所や脱衣所の物品にはプライバシーにも配慮しレースをかけたたり、浴室を含め整頓が徹底されている。	柚子風呂支援は冬至のみ行われたようであるが、今後は全員の方が楽しめるよう、数日実施したり、冬場はゆず湯を何回も楽しむなど職員のアイデアで楽しい入浴支援に繋げていただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人々の要望や状況に応じて対応している。日中は活動や日光浴などを促し安眠できるような支援をしている。ストレスの状態等を申し送りにて全職員が把握し1日穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を名前別に閉じ、全職員が把握出来るようにしている。状態の経過や変化を訪看に相談したりかかりつけ医に報告している。1人々の薬箱にて飲み忘れや誤薬の防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において出来ることは手伝ってもらっている。本人のペースで生活できる様支援している。季節ごとの行事や誕生会など全員参加で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中医院への電気治療へ出かけ行かない利用者様は散歩や近くの店への買い物などの支援をしている。家族の協力にて墓参りや友人宅自宅に外出されている。月に1度は必ず全員でドライブ(水俣、日奈久方面)に出掛けている。本人の意向により度々外出の支援もおこなっている。	母体医院への治療や近隣の散歩、買い物など希望や状況に応じて個別での外出を行っている。また、水俣のバラ見学などドライブ外出は恒例となっている。職員は入居者の表情や落ち着きなどからも「出かけたい」の希望を察知し、個別で声をかけており、「よかところに言って来た〜！」と笑顔で帰宅された入居者の姿があった。家族の協力としては、正月や気候の良い時に墓参りや法事での外泊なども行われている。	暑さや寒さ、感染症など外出を控える時期もあるため、今後も気候の良い時は家族の協力も得ながら敷地内や近隣の散歩を継続されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の同意の元に所持されている方もおられ、買い物などの支援をしている。預り金の説明は入所時に必ず行い本人と家族と相談合意を得て管理している。面会時には預り金ノートにて使徒と残金を確認して頂きサインをもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望にていつでも電話を使用出来る様支援している。手紙を書く方もおられ、プライバシーに配慮しながら支援し一緒にポストへ投函に出掛ける時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり行事ごとの写真など利用者様と一緒に考え意見を尋ねながら飾りつけをしている。室温も温度計を確認し調節している。居心地良く過ごして頂ける様全職員にて意見を出し合い工夫している。	奥行きのあるホーム内は明るく、リビング・食堂には文化祭に出品した入居者の作品やどこでも確認できるよう数箇所に大判のカレンダーが掲示されている。他の方の面会にも一緒に楽しく談笑される光景や、手すりを使って自ら足踏みストレッチをされる方、14時からのテレビ(時代劇)を楽しみに待たれている方など、日常が伝わってきた。入居者の中には、朝から掃除を手伝われる方もおられ、ホーム内は臭気もなく清潔に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と後方の非常口辺りに椅子を準備し1人で外の景色を眺めたりゆっくりできる空間を提供出来る様工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し馴染みの物を持って来てもらっている。居室には本人と一緒に写真や手作りの物を飾ったりしている。装飾することを拒否される利用者様もおられる為相談しながら行っている	入居時にホームでの準備品(ベッド・タンス・寝具など)を説明し、本人がこれがなければ安心しない!というようなものがあれば持ち込んで欲しいと伝えている。入居当初持ち込まれた鏡台など安全面や心配になった時は家族と相談し、一旦倉庫で管理するなど状況により対応している。また、面会時に必要な物品を伝えたり、衣類の入れ替えは家族にも協力を依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行される方が安心して動ける様ソファや椅子を手摺りの代替になる様工夫し設置している居室も一人々の身体機能や状態にあわせ家族と相談し決定している。トイレに座り足が床に着かない方にはスノコの足置きを設置するなど工夫している		